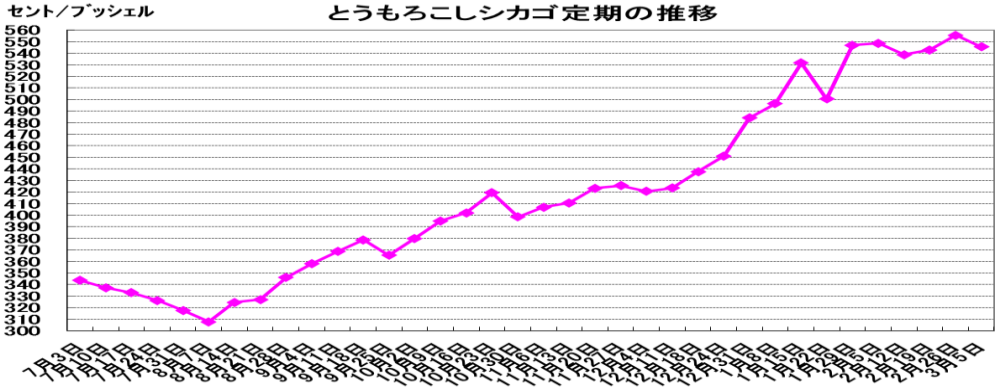
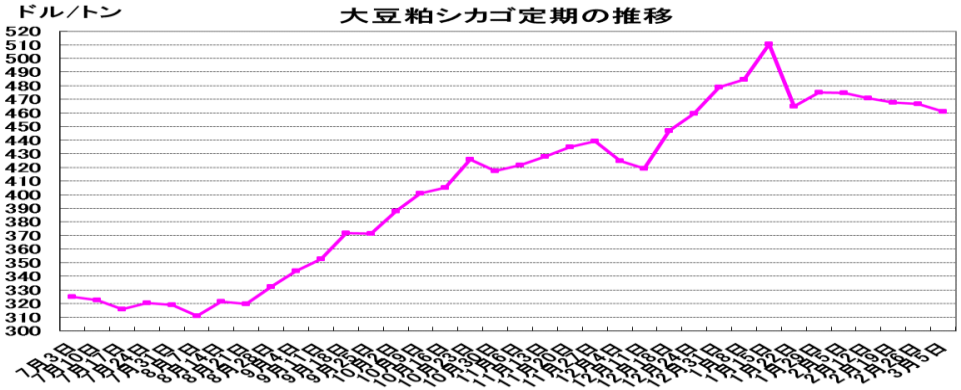
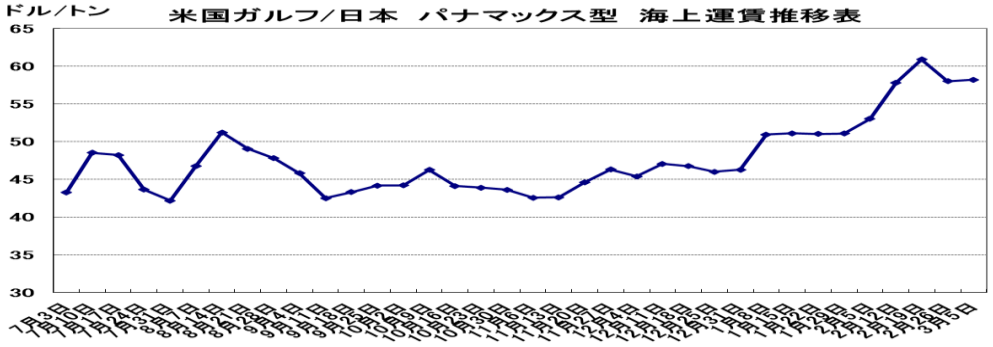
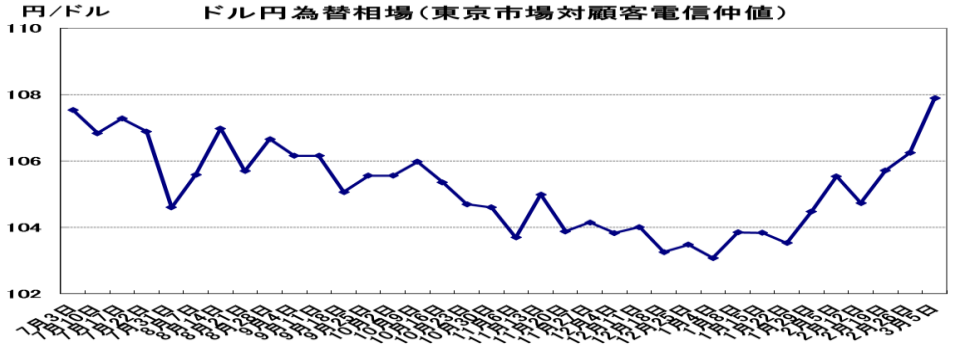
飼料情勢

2021年3月5日

1. とうもろこしのシカゴ定期は、8月には米国産地で生育に適した天候になったことなどから、330セント／ブッシェル前後で推移していたが、米国産地や南米産地での高温乾燥による作柄悪化懸念や、中国向けを始めとした米国産とうもろこしへの旺盛な輸出需要により430セント／ブッシェル前後まで急騰した。その後、1月12日に米国農務省が発表した需給報告で、期末在庫が市場予想を下回ったことや、新たな中国向け輸出成約報告などを受けて上昇し、現在は550セント／ブッシェル前後となっている。

2. 大豆粕のシカゴ定期は、9月上旬には米国産地の高温乾燥による大豆の生育悪化懸念を背景に340ドル／トン前後まで上昇していたが、中国による旺盛な需要を背景に米国産大豆の輸出数量が増加したことなどから、10月には400ドル／トン前後まで急騰した。その後、生育期に入った南米産地での高温乾燥による生育悪化や、1月12日に米国農務省が発表した需給報告で、米国の大豆生産量見通しが下方修正されたことなどから510ドル／トン前後まで上昇したが、ブラジル産地の降雨観測による作柄改善期待などから下落し、現在は460ドル／トン前後となっている。

3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、8月上旬には45ドル／トン前後で推移していたが、米国の穀物輸送需要が堅調なことで、一時50ドル／トン台まで上昇した。11月には南米積み穀物輸送需要や中国向けの石炭輸送需要が一段落したことから45ドル／トン前後で推移していたが、その後、中国向けを中心とした穀物・石炭輸送需要の増加や、原油相場が堅調であることなどから上昇し、現在は60ドル／トン前後で推移している。

4. 外国為替は、9月には106円前後で推移していたが、米国の低金利政策が長期化していることや、米国議会でねじれが生じる可能性が高まるなど、米国の政局運営への不安感から円高がすすみ、104円前後まで下落した。その後、米国議会のねじれが解消されたことによる追加経済対策や、新型コロナワクチン普及などによる経済活動回復への期待感から円安がすすみ、現在は108円前後で推移している。